

クリーンラーチ採種園の整備推進の取り組み

林業試験場 森林資源部 経営グループ 今 博計

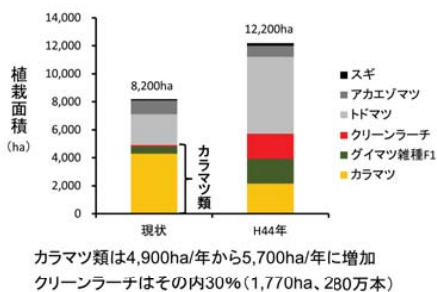
研究の背景・目的

クリーンラーチはグイマツ精英樹中標津5号を母樹、カラマツ精英樹を花粉親とするF₁雑種です。グイマツ雑種F₁はカラマツに比べ生存率が高く、初期成長が速く、材の強度や通直性にも優れる特徴があります。なかでもクリーンラーチはより優れた成長を示すことから、伐期を迎えつつあるカラマツに代わる造林樹種として期待されています。平成25年には間伐特措法による特定母樹に指定され、民間による採種園造成が始まりました。本発表では、北海道で始まったクリーンラーチの増殖促進の取り組みについて紹介します。

研究の内容・成果

1. 将来目標

樹種別の年間植栽面積

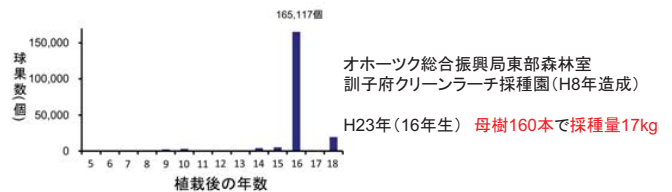


【本数の内訳】
さし木 140万本/年
実生 140万本/年

【播種量51.7kg】
さし木 6.0kg/年
実生 45.7kg/年

2. 採種園の必要面積の試算

項目	数値	
① 種子採種開始年齢	15年	
② 豊作間隔	5年	
③ 母樹1本、年あたり採種量	21.3g/年/本	
④ 苗木生産に必要な種子量	51.7kg/年	
⑤ 採種時の母樹数	2,429本	66本/ha
⑥ 植栽時の母樹数	3,700本	100本/ha



3. 造成計画

北海道採種園整備方針 (H27年3月)

	目標母樹数	計画	整備済み
公営採種園		1,300本 (13ha)	550本 (5.5ha)
民営採種園 (認定特定増殖事業者が整備)	3,700本 (37ha)	1,850本 (18.5ha)	—

4. 参入促進説明会の実施

北海道水産林務部林務局森林整備課

- 支援内容、申請・認定スケジュール

林業試験場

- 採種園整備に関する情報提供

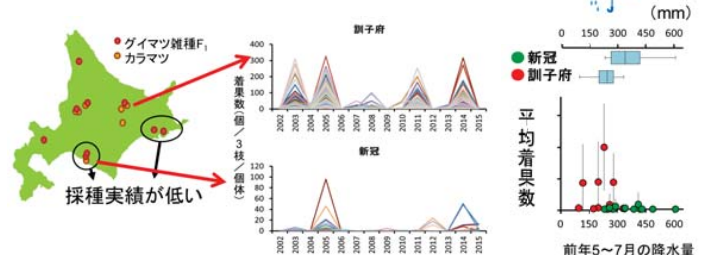
北海道育種場

- 採種園設計、接ぎ穂及びクローン苗木の配布

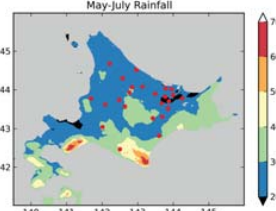
(H26、27年)
札幌、旭川、帯広、網走



5. 造成適地の解析と紹介



5月~7月の降水量分布



花芽分化期に降水量300mm以上は不適地

太平洋側の地域に造成しないよう助言・指導

実際、カラマツ類の球果採取は降水量の少ない地域で行われている。

●カラマツ類の球果採取実績地 (1989~2015年)

今後の展開

現在、7社が特定増殖事業者として認定され、15.08haの造成が始まっています。接ぎ木増殖も1年を経過し、成績の良し悪しも見えてきました。増殖は始まったばかりですが、成長や材質の優れたクリーンラーチは、将来の地域林業の活性化につながる期待の品種です。今後も関係機関と協力し普及促進をはかっていきたいと考えています。

6. 現地検討



候補地の土壌調査



接ぎ木指導 (育種場主導)